

2022年10月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 10月えんだより

10月の聖句 「その人は豊かに実を結ぶ」

ヨハネによる福音書 15章1節～17節

「暑さ寒さも彼岸まで」豊かな四季の自然環境を持つこの国のいにしえの人々が語り継いできたように、ようやく厳しい暑さも落ち着いてきました。また、正体が良くわからなかった「新型コロナ」も随分理解が進み、多くの人々が新たな歩みを始めています。子どもたちもこれまでとは少し違った形で、新しい挑戦を始めています。

先日、ある医療従事者から電話がありました。もう30年余り前、YMCAで野外活動やキャンプのボランティアリーダーとして子どもたちと活動をしていた女性からでした。YMCAの活動で大切にしているものに「メンバーズファースト」という言葉（思い）があります。「子どもたちのことを第一に！」です。神様から愛されている存在である子どもたち、神様から預かっている命ある子どもたちのことを第一に考えようというものです。リーダーたちは、この言葉（思い）を職員や先輩からしっかりと受け継いでいきます。彼女の言葉を借りると言葉だけでなく、先輩リーダーが子どもたちと関わる姿から強く感じ取っていったと。勿論、電話をくださった彼女もリーダー時代にこの言葉（思い）を受け継いでいきました。看護学生という多忙な中で子どもたちと活動を続けた彼女は、卒業後、大きな病院で子どもの入院患者の担当として数年を過ごしたそうです。そこには、命にかかわるような重い病を患った子どもたちもいたそうです。そのような子どもたちと毎日向き合いながら、「子どもたちのことを第一に！」という言葉（思い）が常に心の中にあったそうです。

あれから数十年。現在彼女は町の診療所で看護師をされているとのこと。このコロナ禍の下、これまで体験したことのないような忙しさの中で、目の前の業務に忙殺され心が折れそうになって電話をしてきたそうです。暫くお話をすると落ち着かれたようで、「自分の中には今も『メンバーズファースト』の言葉（思い）が残っている。これまでずっとこの言葉（思い）を大切に歩いてきた。今一度、この言葉（思い）を胸に、しっかりと患者さん、子どもたちの方を見ていきたい。」と語られました。

彼女たちは、YMCAという『枝』から神様の愛につながり、子どもたちに、人々に神様の愛をもって仕えるという大きな『実』を实らせて今も毎日の歩みを続けてくださっているようです。

こども園での歩みも、神様の愛につながる『枝』を守り、子どもたち、保護者の皆様、地域の方々、職員、多くの人々の中にも神様の愛という実が豊かに実ることを願いつつ、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。

10月	乳児（0,1,2歳児）	幼児（3,4,5歳児）
月主題	やってみよう	ふれあう
月の願い	*季節の移り変わりを感じ、身近な自然に触れてあそぶ中で「たのしいな」「やってみよう」と心と体を動かすことを楽しんでほしいと思います。	*身近な秋を感じながら、友だちと一緒にあそぶ中で、様々な思いに気づき、触れ合う喜びをたくさん感じながら過ごしてほしいと思います。
讃美歌	「どんどこどんどこ」 こども改 106	「わたしたちのたべるもの」 こども改 102